

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	平成28年9月7日(水) 10:00~12:00
場所	沖縄県立図書館3階研修室
出席委員名	望月道浩会長、豊見山恵美子委員、金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員、呉屋美奈子委員、上江洲豪委員、野原多恵子委員、中村孝夫委員
議題及び報告事項	1開会 2館長あいさつ 3議事 報告事項 ① 県立図書館の運営状況について(平成28年度上半期) ② 「沖縄県立図書館評価指標による図書館評価」について ③ 新県立図書館の概要について 4各委員からの図書館への質疑・提言 5閉会
議事の概要	報告事項に対する質疑応答を行った。 委員からの質疑及び提言は議事録のとおり。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 亀島・田中 電話 098-834-1218
備考	

平成28年度第1回沖縄県立図書館協議会 議事録

日時 : 平成28年9月7日(水) 10:00-12:00

場所 : 沖縄県立図書館3階 研修室

出席者 : 望月道浩会長、豊見山恵美子委員、金城由美子委員、新垣吉宗委員、津波津賀子委員
呉屋美奈子委員、上江洲豪委員、野原多恵子委員、中村孝夫委員

傍聴者 : 1名

次第

1 開会

2 館長あいさつ

3 議事

4 委員の皆様から図書館へのご提言

5 閉会

<議事内容>

最初に宮里館長より挨拶を行い、その後望月会長の進行により議事①県立図書館の運営状況について(平成28年度上半期)について、宮里館長より説明を行った。質疑応答の後、議事②「沖縄県立図書館評価指標による図書館評価」について、田中班長より説明を行った。質疑応答の後、議事③新県立図書館の概要について、城田生涯学習振興課新図書館準備室室長より説明を行った。議事における発言要旨は以下のとおり。

<事務局より議事①について説明>

(委員)

④番(資料2ページ)の離島・本島間図書館相互貸借促進事業であるが、予算措置がされているのは、那覇市、浦添市、宜野湾市、琉球大学の4つの図書館であるが、この4つの図書館に限定している理由がありますか。

(事務局)

予算の問題というよりも1週間に1回A・Bと違うルートで市町村図書館の巡回と協力貸出を一緒に行い県や市町村図書館同士の貸し借りを充実させる目的があります。貸し出しの期間が1か月以上2か月くらいまでかかることが予想される。那覇市、浦添市、宜野湾市は貸し出し等が多い図書館であるので、まずはこの図書館と離島の図書館を充実させようと考えたのが、スタート(最初)であります。

(委員)

貸出期間については、貸出を行う図書館相互の問題であるので、貸し出す図書館が2か月間貸し出しでも大丈夫であれば、県立図書館の方で取りまとめてもらった方が、離島の図書館は負担が少ないと思う。実際、離島からの依頼があり、相互貸借を行っている。例えば、1,000円の本に離島の図書館が送料を往復負担して借りる現状があり、貸し出す側としても心を痛める現状があります。

早く返して欲しい本なら、貸借の相互間の話し合いで送料を負担して貸借してもいいが、貸し出す図

書館の期間に問題がなければ、県立図書館でまとめて送った方が効率的だと思うので、検討していただきたいと思います。

(事務局)

現在のところ、離島の図書館との相互貸借を他館にも行うとすると、どのくらいの規模になるか想定が出来ないので、予算のことも考えて検討させてください。

(委員)

今年から県立図書館からの巡回車が来ています。便利だと感じているので、離島の方々の負担を軽減する意味で提案しています。

(委員)

活動が活発になるほど、課題点等がいろいろでて来ることがあると思います。またご検討をお願いします。

(委員)

館長の方から運営状況が詳しくありました、入館者数、貸出冊数、蔵書冊数、すべていい形で増えているので素晴らしいと思います。いろいろな面で努力があつての結果だと思っております。

新しく図書館が、中城村で開館したことは非常にうれしく思います。生涯学習振興課で勤めているときに、市町村へ図書館設置への働きかけなどもやっていましたが、すばらしいです。

今日の新聞でもタイムスの一面に、立体映像に手をかざし操作（センサーに手をかざして立体映像を自由に動かす技術を確立し、全国で初めて商用化している）と掲載されていましたが、図書館のひとつの設備として、設置されたということです。各市町村図書館が努力していると思えました。

昨日、恩納村の図書館に今帰仁村の図書館職員が研修の視察に来ていたとの記事を見ました。システムといい、内容といいすばらしい。市町村図書館も県立図書館も頑張っていると思えました。

もう一つは図書館司書職員の新規採用があつたということで、人材が充実した形で、これからますます、いい形で図書館運営が進められていくと思われます。

最後にウチナーンチュ大会において移民展を開催するとのことですが、とてもすばらしいことだと思います。前回と違ってかなりの数の世界のウチナーンチュが来島し、交流する中で、自分のルーツを訪ねて、また世界に羽ばたいている方々とふれ合うことが沖縄県民のいろんな意味でのプラスの部分が出てくると思っています。県立図書館が主催をする移民展に非常に期待をしております。

(委員)

2の方の貸出冊数、レファレンス件数の2点お伺いします。2番の貸出冊数ですが10冊を15冊に増やしていますがこれは移動図書館だけですか。本館の貸出冊数は10冊のままですか。

(事務局)

本館は10冊までです。

(委員)

県外の図書館で、県立図書館で予約した本を市町村図書館の窓口で借りることが出来る記事が掲載されておりました。相互貸借を使用すれば可能だと思いますが、直接、県立図書館の本の受け取りや返却が市町村で出来るシステムは、いいと思えました。このあたりのサービスについて県立図書館の方で検討されていることはありますか。

(委員)

レファレンスのことですが、先ほどの説明では件数ではなくて質を重視とのことでしたが、内訳ですが例えば、市町村図書館からのレファレンスが多いのかどうか。県立図書館の役割として市町村図書館が答えられないような高度なレファレンスに回答をするという役割があると思います。実際に市町村図書館からどのくらいの問い合わせが来ているのか分かるかというと思います。

(事務局)

県立図書館で予約して市町村図書館で受け取るということは相互貸借のことですか。また別の話ですか。

(委員)

県で借りた本を市町村図書館で返却するような仕組みです。巡回車が回っているので可能だと思いますが。

(事務局)

新館に向けて検討していきたいと思います。

(事務局)

郷土資料関係のレファレンスは市町村図書館からも多くあります。

レファレンスについては、個人から市町村図書館を経由すると時間がかかるので、お急ぎの方は直接、窓口の方か電話で照会してもらっています。

(事務局)

補足として、市町村図書館へのレファレンスの統計は取っていませんが、市町村図書館からの問い合わせや大学図書館、OIST、県外の図書館、大学図書館を含めて、問い合わせ等を受けて回答しております。さらに、県立図書館のレファレンスデータベースで、登録している事例を見て参考資料を探して回答しているということを市町村立図書館等から、コメントも頂いています。

(委員)

広域的なサービスを考えたときにトータルの数を示すことも大切なことでもあるので、離島とか遠隔地で対してのサービスの状況を見える形にして情報提供することも大切です。そのあたりのところもご検討頂きたいと思います。

(委員)

②番の一括貸出についてお伺いします。説明の中に福祉施設や学校等へも周知を図ったところ、貸出冊数は増えているとあります。私が県立図書館に居たときには一括貸出セットが、10セット、20セットしかなかったのですが、今は260セットがあり、発展的に取り組まれているのは、とても素晴らしいことだと思います。特に学校図書館の立場からお伺いしたいと思いますが、学校の場合には子供達に提供するのは学校図書館にあります。学校の先生方の校内研修や学びの一括貸出セットは非常に有効だと思います。去年は前任校で一括貸出セットをお借りした。この一括貸出の周知の方法ですが以前でしたら県の校長会あたりでアナウンスがありましたが、ここ最近は、ないと思っています。どれだけの校長先生や図書館関係者が分かって、利用しているのかが見えない。そこがどうなっているのかお伺いしたい。さらに那覇市近郊の方はいいですが、中頭や国頭からは借りたい本があっても県立図書館まで

借りに来れないが、そういったところの対応はどうお考えですか。離島は、かなり充実して来ていますがそのへんについてお伺いいたします。

(事務局)

職員向けのセット貸出ですが、今年は、宮古教育研究所の方から、学校の図書館司書がほとんど臨時的任用職員であり、質を高めたいとあり「学校図書館司書セット」を新たに作って貸出ができないかとの要望がありました。そこでこのセットを教育研究所が借りて、学校の先生方に貸す方が効率的だということで、今回は約300冊近くを宮古教育研究所に貸出をしています。あと養護教諭については最近、発達障害には子どもの発達障害と大人の発達障害の本の要望があり、教職員向けに大人の発達障害の本も貸出をしています。教育研究所あたりで教育研究所センター長の会議がよいので、会議で説明したいと思っています。そこで、貸し出す本を紹介して行きたいと思っています。

これまでは校長研修会で周知してきましたが、校長研修会の内容が、多岐にわたり、説明等が多くて、一括貸出の部分が学校に伝わっていないことがありました。それで今年は司書教諭の研修会に出向いて説明などもしております。

教育事務所を回って説明していましたが、今後は一括貸出を学校で行う場合に、県立図書館との事務処理に学校事務職員が入ると業務がスムーズに行われると思われる。各学校の図書館司書職員が臨時的任用職員の場合が多いので、その辺の教職員の負担軽減を図るためにも、積極的に学校事務職員が関わってくれるとことを望んでいます。今後は、学校事務職員の研修会にも一括貸出の説明をしに行きたいと思えます。国頭地区には10月か11月くらいには説明に行きたいと考えています。その他の福祉施設関係も今年度は貧困対策とかのキーワードがよく出ています。また、障害者差別解消法なども出ていますので、福祉施設関係にも積極的に訪問し、一括貸出制度の周知を図って行きたいと思えます。今年度は沖縄少年院の方にも訪問し、一括貸出の説明をして、何百冊か貸出を行いました。

(事務局)

子どもの貧困等がありますが、社会教育という中で読書環境は学校では平等であるが、子供達が学校の外での読書活動に差が出てくる。所得に関係なく、子供たちが読書を平等に出来るような環境を提供するのが県立図書館の役目だと思っております。それから先ほどの話の中に身体障害者対象年ということもありますし、去年は身体障害者協会とか児童福祉施設とかに出向いて一括貸出の説明をしています。

(事務局)

最後に一点、那覇近郊の先生方は直接、県立図書館に出向き、借りることが出来ますが、中頭、国頭または離島の先生方は、県立図書館まで来ることは大変ですので、一括貸出のリストを充実させるようにしています。例えば研修グループや夏休みを利用した図書館司書等の研修会がある時に、グループでの県立図書館の見学を大いに歓迎しております。もっと館外協力室の書籍等を直に見てもらうことでPRして行きたいと思っております。

(委員)

いろいろな努力をなされてるということは理解しました。中部地区の図書館協議会を担当していますが、司書教諭の研修会は法定研修でありますので、そこでも有効だと思いますが、やはり実際に図書館を見ているのは学校司書の方です。図書室研究会の総会には臨時職員であっても担当の方がいますので、出来れば、その場でも一括貸出の説明をしていただけたら、更に周知(貸出)が出来ると思えます。それぞれ那覇地区、島尻地区等ありますので、連携を取られた方がいいと思えます。

(委員)

国頭地区と中頭地区の司書教諭の研修会の時に、県立図書館の一括貸出のセットについて紹介があり、どのように持ってくるのか、実際にブックトラックも持参されて、いろいろ説明されていました。研修に参加されていた先生方にとっても、この一括貸出制度を知る機会となり関心を持って頂く機会ともなったことと思います。

(委員)

2点、3点ほど質問があります。2ページから3ページの離島読書活動支援事業ですが、離島・僻地に貸出をしていて、大変素晴らしいことですが、こちらは書籍のジャンルとかについて、何か、先方の要望とかはあるのでしょうか。

(事務局)

要望や過去のデータ等で、読書に関する統計をとり、地域毎に分析を行い、地域のニーズにあった本を選書しています。例えば、久米島だと4月には1200冊の本を持って行きましたが、好評だった為、今回は1500冊の本を持って行きました。調整しながら書籍は持って行きます。

(委員)

3ページの沖縄県立図書館所蔵郷土資料劣化度調査について、どうしても書籍は劣化度は避けられないですが、デジタルアーカイブ化するのが、良いと思っております。このあたりの取り組みはなさっていますか。

(事務局)

全てのデジタルアーカイブ化はまだ行っておりません。まだ前段階です。劣化度調査の対象となっている四つの分類だけでも4000冊くらいあり、中身については1920年代の古いのもあって、その書籍の劣化の方がかなり進んでいることもあり、出来るだけ複製を作り、提供する形をとっています。ただ、いろいろ研究をされている方は現物をご覧になりたいとの要望が多いです。

(事務局)

デジタルアーカイブも1200件くらいありますが、ずっと伸びてきたんですけど著作権との関係があって年に4・5件くらいしか掲載できないスピードになっています。貴重資料は著作権がクリアできれば、やっていきたい。

(委員)

去年も質問した内容ですが、審議委員の関心が、例えば、団塊の世代の方や老人の方の利用がとても増えているとの説明があり、実際の取り組みは、これから計画していきますとの話でした。団塊の世代、老人の学習の機会、生きがい作りとして、今年はどういう取り組みを計画しているのか、お聞かせ願いたいと思っています。

(事務局)

お手元にお配りした資料の中に郷土史講座とか歴史講座については、自分の郷土やルーツに関する内容について、あるいは地域に係わる内容について非常に関心のある方は定年等退職されている方が、多く、今回、大学の非常勤講師の方に講師をして頂いていますが、学生からも聴講したいとの要望もありましたが、曜日の関係等があり、先輩方の聴講が多い状況です。昨日から始まりました、郷土史講座も

135名の聴講者がおり、遠い方は国頭あたりから申し込まれています。次の歴史講座もまた同じように沖縄で作られた地図に関する講座です。この講座も現在、募集をかけています。例年、年齢の高い方の聴講が多いです。さらに図書の選定でも1階にはシニアコーナーを設けております。シニアの定義が難しいですが、シニア世代に向けて、例えば健康やスポーツあるいは、趣味の本の選書を進めてコーナーの一つ作ってあります。

(事務局)

先ほど説明をしましたが、障害者の差別解消年でもありますし、障害者というのが身体障害者とか以外にもご高齢の方に対しても同じようにとのことで、図書館は7月26日に大阪から講師も招いて、図書館における障害者サービスを向上しようということで市町村図書館司書の方々を対象に講演をして頂きました。

(委員)

2番目の報告事項です。沖縄県立図書館の評価指標について、事務局の方からお願いします。

(事務局)

総務班長より沖縄県立図書館の評価指標についての説明。議事における発言要旨は以下のとおり。

(委員)

以前の協議会の時にも話をしましたが、広域型図書館の①のところウェブアクセシビリティチェックサイトの評価点数のところについては、評価できるサイトが使用できなくなってしまったということで、ここの評価は記入されていないとのことでした。先ほど障害者差別解消法が施行されている状況の中で、ウェブアクセシビリティチェックの確認というところは非常に重要になってくる事項だと思います。県立図書館として、来館できない方に対しての情報提供という点では、この部分が評価できないからということになってしまうとちょっと問題です。評価出来るように検討をお願いします。

この評価自体は平成27年度までの評価です。また次の評価に係わって、どのような項目が設定されるのかいうところが出てくると思いますので、改めてウェブの情報提供の確認を進めてもらいたいと思います。

(委員)

(2)の課題解決型図書館の中に市町村図書館及び図書館未設置町村への支援がありますが、昨年度のアナウンスを受け、研修内容を充実させたこともあり、参加人数も増え、目標値を達成している。10年前とは違う傾向が見られた。前は非常に市町村立図書館からの不満や要望が多かったが、かなり改善されてきていると思った。非常にいいことだと思っています。

(事務局)

今回だけでなく以前からの意見も踏まえて外部評価を行いたいと思っています

(委員)

この基準については、いったん区切りになると思いますが、今後の見通しについては、どういう形で評価がなされていくのか出来れば教えて下さい。

(事務局)

平成30年度に新館が動き、場所等も変わりますので、平成29年度までの評価を作りたいと考えております。予算とかの関係もありますが、現在の評価指標をベースにして、足りないような部分を修正し、状況を確認しながら、作成したいと考えております。

(事務局)

生涯学習振興課から③新県立図書館の概要についての説明。議事における発言要旨は以下のとおり。

(委員)

要望または提案ですが、旭橋に移転しますが、おそらくビジネス街で、今までとは違った、利用者層(特にビジネスマン)が想定されると思います。モノレール駅ということもあって、毎日の通勤経路ではあるが、図書館が開館している時間帯には、通ることが出来ない方も沢山いると思います。朝の7時頃(図書館が開いてない時間帯)に通って、仕事が終わる頃(図書館が開いている時間)に来館出来ない方にも、いろいろな情報をPR出来るようにして頂けたらと思います。例えば、県立博物館や美術館は敷地の外の方にまで、掲示板等があります。新館でもビジネス関連のブックリストなどを拡大して、何か掲示板に貼るなど、開館時間外に何か掲示板を設置して頂けたらと思っていますので要望します。

(事務局)

いろいろな制約があり、新館の駅周辺は公共の場所、共有の場所となるので、共有の掲示板が出来ると思いますので、そこに掲示することになると思います。その場合にスペース的のどのくらいになるのかまだ分かりません。当然ながら、我々もPR等の必要性は十分に感じています。最低限の情報提供は出来ると思いますが前向きに検討していきたいと考えております。

(委員)

駐車場の問題について、私たちの図書館でも人口一万人ですが、駐車場が80台ですが、満杯になったりします。これだけの機能を備えた施設(新館)で駐車場が340台というのが、多いのか、少ないとなると少し不安になります。利用者が十分にとめるだけの台数かどうか不安に思います。このようなところは検討されていますか。周辺に無料で使用できる場所があるのか気になります。

(事務局)

この地区は大きな地区として那覇市が主体となって都市開発をしております。その計画全体の中で、これだけの建物があれば、その中でどのくらい駐車場が必要か都市計画上で計画されていますので、トータルで見て都市計画上で整備しているの、大丈夫ではないかと考えております。

駐車場については、都市計画として民間が営業しますので、無料というわけにはまいりません。その中で図書館サービスも必要ですが、もっと高度な県立図書館としてやらなければならないサービスがその前にあると思っています。例えば、車を持っている人には、無料でも、バスやモノレールで来られる方は、無料というわけにはいきません。ある程度の受益者負担は必要になると思っています。県外や那覇市でもありますが、30分無料とか、そのようなサービスもありますので、それも含めて、これから検討していきたいと考えております。ただ、現在の図書館のように、まったくの無料は、もう無理と考えております。

(委員)

ビジネス街に商業施設との共同使用であるとか、東京の千代田区図書館でしたか。そんなような状況の中においてビジネス街のビジネスマン達に本を提供する少し特化したような形で開館時間を後ろの方に

ずらしていくと思いますが、そのようなことも考えていますか。

(事務局)

ビジネス街も近いですので、開館時間についても充実させたいと思っております。今のところ具体的には申し上げられませんが、その方向で行いたいと希望を持っています。

開館時間が増えれば、人の増員や電気代、水道代等の経費がかかってきますので、実現に向けて頑張っていきたいと思いますが、ある程度の目処が立たない現段階では詳細は申し上げられないというところをご理解頂きたいと思えます。

(委員)

7つの基本方針の⑦番目にも掲げられているように「持続可能な施設の図書館」とあります。その持続可能というところを保証するためにも、ぜひ、慎重に検討して頂いた上で県民の為の図書館として開館して頂くことを願っております。